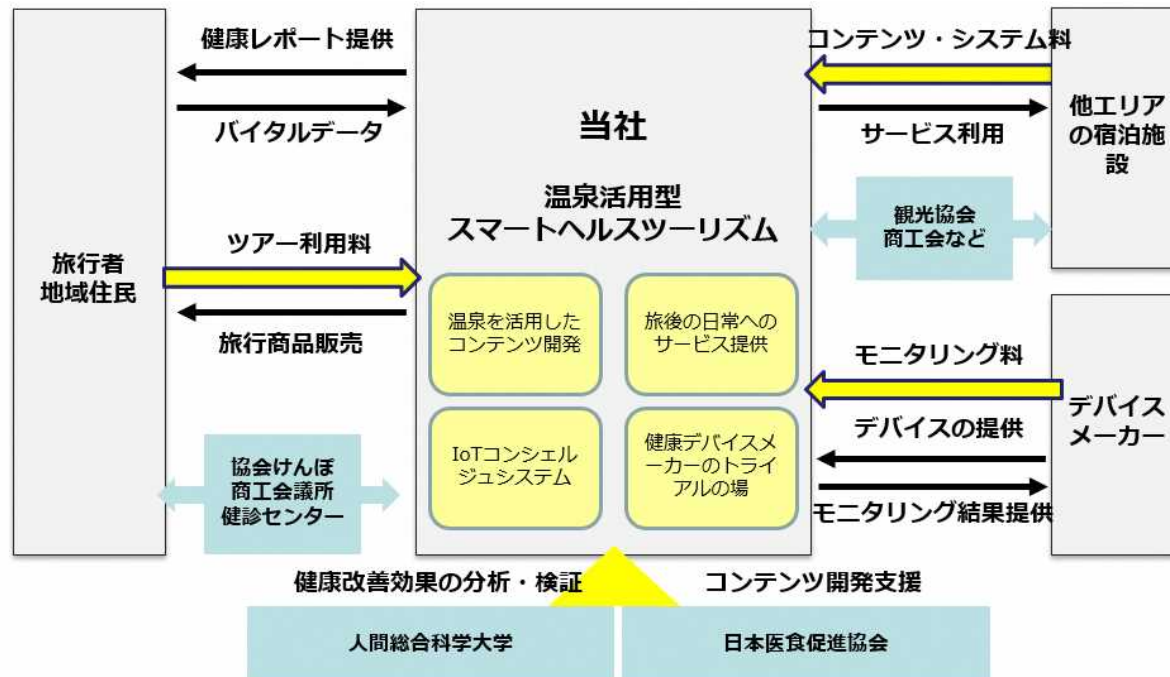


事業主体	株式会社竹屋旅館（代表機関） 早稲田医療学園 人間総合科学大学（共同機関）
実施テーマ	生活習慣病患者・予備軍のシニア層向け「温泉活用型スマートヘルスツーリズム」の開発と伊豆エリアでの展開
事業概要	<p>医療費拡大や健康意識の高まりを背景に、温泉入浴による健康増進や温泉を活用したヘルスツーリズムへの期待が集まる一方、健康改善と観光体験価値を両立するビジネスモデルは少ない。本事業においては、この課題を解決するヘルスツーリズムモデルの企画・構築・実証を行った。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病患者・予備軍のシニア層（旅行者・地域住民）に対し、温泉を活用したコンテンツ開発やIoTデバイスによる健康の可視化を行う「温泉活用型スマートヘルスツーリズム」の提供を行うモデルを構築。 西伊豆の温泉旅館「AWA西伊豆」にて、温泉+温泉の効能を高める食・運動コンテンツ開発を行いヘルスツーリズムを組成。 利用者はIoTデバイスを装着し健康コンテンツを体験、ツアー終了時に健康数値を可視化したレポートを提供。旅後には、取得データに基づく情報提供を行いリピート率向上を目指す。 本モデルを県内全体に横展開し経済活性化と地域健康づくりに繋げる。



温泉の効能を高めるコンテンツ

コンテンツ

- ・温泉効果を高めるための「入浴方法」や「入浴前後の過ごし方」の提案
 - ・厚生省が推奨する「スマートミール」基準を守った「健康食メニュー」の開発
 - ・温浴効果や腸活効果を高める「ヨガ」動画コンテンツ
- ※いずれも専門家（医学博士・管理栄養士・ヨガインストラクター・メディシェフ等）の監修済



IoTコンシェルジュシステム

デバイス

- ・スマートウォッチ：心拍数（交感神経/副交感神経）・睡眠の質・消費カロリー・歩数
- ・血糖値測定センサー：血糖値（常時測定）
- ・血圧計：血圧（最高/最低）

アンケート & レポート

- ・個人情報・バイタルデータ・生活習慣等について、旅前・旅中・旅後それぞれについて実施
- ・デバイス取得したバイタルデータとアンケート結果に基づいた個人レポートを提供



上記のコンテンツ開発モデル、IoTコンシェルジュシステムは、様々な宿泊施設で活用できるよう横展開可能・拡張可能なモデルとして設計。

モニターツアーの概要

- 実施日：計4回（プログラム内容をA～Dの4グループに分けて実施）
- 対象者：旅行者及び地域住民のうち、生活習慣病患者及びその予備軍 **計52名**
 -シニア層を中心としつつも、解析データの有用性を高めるため、20～30代の方にも参加頂いた。
- 測定項目：血圧、血糖値、体重、睡眠の質、ストレス、アンケート・ヒアリング調査
 -測定期間は当初は滞在中のみを予定していたが、**日常生活との差異や健康効果の継続を測る目的から希望者にはツアー事前事後5日間についても測定実施**
- 実施内容
 - ・5日前より健康チェックとアンケートを実施。滞在中のプログラム内容は、A～D群の4グループに分けて（※）体験いただき、測定はツアー開始時、就寝前、起床直後、ツアー終了時に実施。滞在後5日間にも健康チェックとアンケートを実施し、終了後に取得データやアンケートに基づくレポートを提供。
 - ・滞在前・中・後の取得データ・アンケート等をもとに、本サービスの有用性を検証。
 - （※）A群（日帰り）温泉浴のみ 11名 B群（日帰り）温泉浴+ヨガ体験 14名
 C群（1泊2食）温泉浴+健康食 16名 D群（1泊2食）温泉浴+健康食+ヨガ 11名



トライアル実証の結果

■ 定量評価（血圧・滞在満足度・血圧・血糖値・ストレス評価）

- ・参加者の9割以上が滞在に対して「非常に満足」「満足」と回答
- ・ストレス改善（活気増加、疲労感・抑うつ感低減）に有意な改善効果
- ・血圧は滞在直後は有意な改善も、5日後には改善効果なし
- ・血糖値は、滞在直後は改善効果なしも、5日後には有意な改善効果
- ・食事満足度、運動満足度、睡眠満足度ともに有意な向上

■ 定性評価（利用者の声）

- （参加者）
- ・様々な気づきを得て旅後の習慣改善に繋がった。日常に持ち帰れる提案も良い。
 - ・デバイスを着用し体調が見える化すること自体がエンタメ体験になる。
 - ・滞在価値が高まり数泊したくなる。本ツアーが伊豆全体に広がってほしい。
 - ・（想定料金+3,000円/人について）「もっと価格をあげても十分に価値を感じる。」
 - （コンテンツ連携開発事業者・ヘルスケア事業者）
 - ・コンテンツ開発を通じて知って頂く機会に。旅後の習慣化支援でも連携希望。

滞在前後の血圧・血糖値

	滞在前	滞在後	有意差
収縮期血圧	135.3±20.9	125.9±16.6	p<0.001
拡張期血圧	82.0±12.2	76.1±11.5	p<0.001
血糖	140.7±61.8	137.5±49.2	p=0.565

日常ストレスの事前事後変化

	滞在前	滞在後	有意差
活気	7.9±2.6	8.8±2.7	p=0.036
イライラ感	5.2±2.0	4.4±1.6	p=0.022
疲労感	5.4±1.9	4.1±1.4	p<0.001
不安感	5.5±2.0	4.5±1.4	p=0.009
抑うつ感	9.0±3.2	7.6±1.9	p=0.002
身体愁訴	19.1±6.3	16.3±5.0	p<0.001

実施した事業の考察

・本ビジネスモデルの提供価値として以下の有用性が推察され「**ツアー利用料**」や「**モニタリング料**」期待できる。

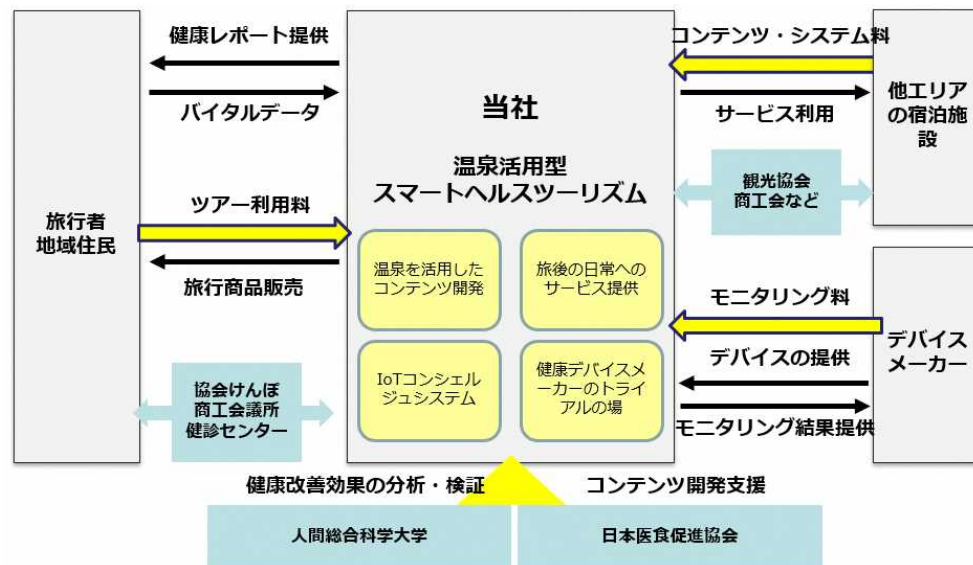
I) 温泉浴による健康改善効果に加え、滞在満足度等を両立する結果を有し、旅としての商品価値もあること

II) 滞在前後だけでなく事前事後への介入も有用性が推察されること

III) デバイスメーカーや連携事業者にとっても自社商品のマーケティングやPRの場となること

・利用者の声より、他施設での導入についてもニーズはあると考えられる。コンテンツ開発やシステム運用の検証次第で「**コンテンツ・システム料**」についても見込める。

上記より、本モデルの提供価値は十分に見込まれ、費用対効果的にも十分に採算を見込むことはできる。



事業化に向けて

今後の展開

コンテンツやIoTコンシェルジュシステムの改良と他施設でのトライアル検証を行い、伊豆エリア全体への面的拡大を目指す。

1. コンテンツ・システムの改良

- ・地域資源や季節性を活用したコンテンツや、日常に介入できるコンテンツの開発
- ・システムにおけるエンタメ性やUI向上

2. 他施設でのトライアル検証

- ・他施設における同様のコンテンツ開発支援やシステム運用支援を行い、他施設での導入による課題・解決策を確認

3. 面的拡大のための販売促進

- ・協会けんぽや検診センター、健康経営推進企業等へのPRなどを行う
- ・実証結果をエビデンスとして、自治体や観光協会と連携した取組にも発展させていく